

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	テクニカル1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース(ドラム専攻)	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要資料はプリントなど配布する				
担当教員	川口 昌二・下田 武男		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
スティックの握り方、スティックコントロールを習得する授業。8ビート、16ビート、シャッフルビートなど基本リズムで楽曲が出来上がっていることを知る。現場でドラマーとしてやっていく自信につながるのは、常に充実した基礎力と瞬時に応用に変えられる経験の豊富さによります。授業内で、常に発表会形式で、習得したことを講師、学生の前でプレイすること、自分のプレイするドラミングの分析、解説をさせる。フレーズを聞いている学生からもその場でフィードバックのコメントを受けられ、日々成長を感じる授業となっている。ドラミングの基礎テクニックをつけ、あらゆる種類の楽曲に対して対応できる力を2年で完成させる授業。					
到達目標					
自分の好きなパターンばかりではなく、さまざまなジャンルのフレーズを習得することを目標としている。苦手なリズムをなくし、個人レベルで様々なフィールを表現できるようにするには、日々の練習と出来上がった自分のドラムプレイの分析、そして、再構築。常に出来上がった自分のプレイに対して、分析と再構築の意識を植え付ける。プロの現場では、同じパターンでもさまざまな抑揚、雰囲気を要求される。その対応力を身につけさせ、音楽に対する意識を高める。					
教育方法等					
授業概要	グループによる授業であるが、個人個人の中でのレベルアップを目標にする。基礎的な部分が完成した者は、プラスアルファの課題を追加していき、基礎も不安定な者はテンポダウンして着実に体に入れる。				
注意点	ドラミングのテクニックの習得には特に力を入れる授業ではあるが、ドラムの採譜、読譜にも力を入れる。音楽現場では、楽譜が読めるかどうか、その先の仕事獲得率に大きく変わってくる。現場さながらに各授業毎に譜面を配布し、ドラミングする授業を行う。2年間で現場での対応力を上げていく。提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は進級できない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	80%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ストローク、ペダルワークの基本からパターン演奏まで		レディポジションを理解してフォームを形成		
2回	4種のストロークをマスター		ダウン、アップ、タップ、フルでアクセントのコントロール		
3回	簡単なエイトビートの読譜と採譜		シンプルなパターンを叩き、記譜し、覚える。		
4回	ハイハット・コントロール		オープン・クローズ、ハーフオープン、ゴーストモーション		
5回	ダブルアクション（足の連打）		スライドステップ、ダンス・ステップを覚える		
6回	シャッフルフィールと3連符		跳ねたリズムと3連符フレーズの理解		
7回	グルーピング・フレーズ		3拍、1拍半、半拍半フレーズ		
8回	ダイナミクス・コントロール		ピーターのオン・オフ、オープン・リムショットなど		
9回	シンコペーション		8分、16分、3連符それぞれのシンコペーション		
10回	アウフタクト		不完全小節の理解		
11回	メトロノーム練習法		各音符の裏取り、2拍連、1拍めのみ等		
12回	表現力の強化		リバウンドストロークや装飾音		
13回	手足のコンビネーション		3ウェイ、4ウェイによるフレーズ		
14回	チャート・リーディング		曲の流れに沿ったドラミング		
15回	まとめ		全体のまとめ		